

豊中市千里地区歩路橋長寿命化修繕計画 (第3期)



千里橋



さつき橋



桃山西橋



千里中央南歩路橋

令和4年（2022年）8月



豊中市



＝ 目 次 ＝

第 1 章 計画の概要.....	1
1.1 背景と目的.....	1
1.2 計画の基本方針.....	2
1.3 これまでの取り組みと計画の進行管理.....	3
1.4 計画の見直し概要.....	5
第 2 章 歩路橋の現状と点検結果.....	6
2.1 歩路橋の現状.....	6
2.2 点検結果概要.....	9
第 3 章 修繕計画対象橋梁.....	11
3.1 修繕計画対象の歩路橋.....	11
第 4 章 維持管理における基本方針.....	12
4.1 点検および日常管理の基本方針.....	12
4.2 健全度の判定区分および管理水準の設定.....	12
4.3 短期的な数値目標.....	14
第 5 章 長寿命化修繕計画.....	15

第1章 計画の概要

1.1 背景と目的

豊中市が管理する歩路橋※は、令和4年（2022年）3月現在で37橋あります。

歩路橋の多くは、昭和37年（1962年）から昭和45年（1970年）の高度経済成長期に大阪府が開発した千里ニュータウンに併せて建設され、後に豊中市が移管を受けた歩行者専用の橋梁です。歩路橋は、歩行者交通と自動車交通が分離された安全で快適な移動手段であるとともに、歩行経路の短縮と魅力ある歩行環境の創出に貢献してきました。また、大型商業施設や公共施設が集中し、豊中市の副都心としての機能を有する千里中央地区に位置する歩路橋は、鉄道やバスなど公共交通機関へのアクセス機能の向上や駅周辺施設への回遊性促進によるにぎわい創出に資する歩行者ネットワークとしての役割を担ってきました。

現在、建設年が判明している橋梁は36橋であり、その内建設後50年を経過する橋梁が20橋（56%）ですが、令和14年（2032年）には31橋（86%）、令和24年（2042年）には33橋（92%）が50年を経過するなど、高齢化の進行が懸念されています。

こうした背景から、平成20年度（2008年度）に点検による損傷状況を把握し、予防保全の考え方を取り入れた計画的な維持修繕の推進を目的とした「新千里地区歩路橋 維持管理計画」（以下、「第1期計画」という。）を策定しました。

また、平成26年（2014年）には国において公布された「道路の維持修繕に関する省令・告示」において、国が定める統一的な基準により、5年に1回の頻度で近接目視による点検が義務化されたことから、平成28年度（2016年度）に2巡目となる近接目視点検を行い、平成29（2017）年8月には「第1期計画」の基本方針や優先度の考え方などを改定した「豊中市千里地区歩路橋長寿命化修繕計画」（以下、「第2期計画」という。）を策定しました。現在は「第2期計画」に基づき、修繕工事に取り組んでいます。

今般、「第2期計画」から5年が経過し、今後も適切かつ持続可能な歩路橋の維持管理を図るため、3巡目となる点検を実施し、この点検結果の分析や過年度の補修実績をもとに、「第2期計画」の改定を行いました。なお、計画期間は今後10年間とし、5年毎の定期点検の結果等を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

■歩路橋の高齢化

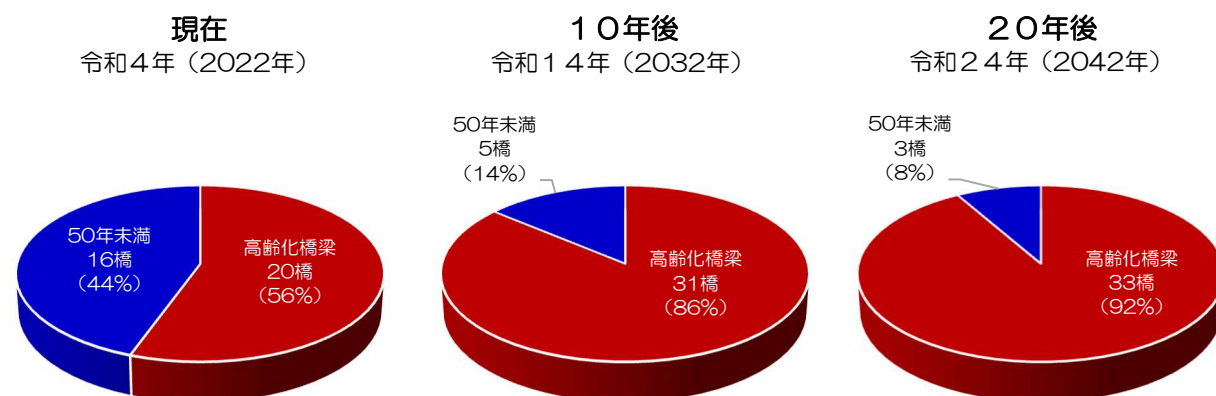


図 1-1 建設後50年以上経過する高齢化橋梁の推移（36橋）

※歩路橋は豊中市独自の呼称です。一般的に歩行者が道路や河川を渡るための橋を人道橋と呼びますが、千里地区の人道橋を他の地区と区別するために歩路橋と呼んでいます。

1.2 計画の基本方針

基本方針については、第1期および第2期計画の内容を踏襲しつつ、社会情勢の変化、点検・補修技術革新の進展や財政状況などを踏まえて、必要に応じて見直しを行います。

(1) 安心・安全な歩行空間の確保

5年に1回の定期点検を継続して実施し、各橋梁の損傷状態を的確に把握するとともに早期に対策を実施することにより、歩行者の安心・安全で快適な歩行空間の確保を図ります。

(2) 予防保全型の維持管理による長寿命化と耐震補強の推進

近接目視を基本とした定期点検を継続して実施することにより、損傷の規模や症状を的確に把握し、損傷が軽微な段階で修繕する予防保全型の維持管理による長寿命化の推進とともに、災害に強く安心・安全な歩行者ネットワークの確保を図ります。



近接目視点検（打音による「うき」の確認）



点検状況（検査口内部での点検）

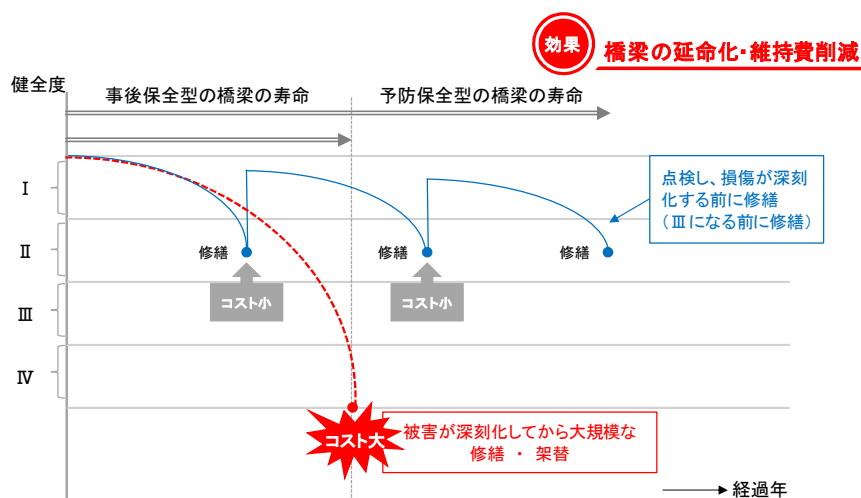


図 1-2 予防保全型の維持管理イメージ

(3) コスト縮減と予算平準化

長寿命化修繕計画に基づき、「予防保全」の考え方を取り入れた効率的な維持管理を推進することにより、将来にわたる維持管理・更新コスト（ライフサイクルコスト）の縮減を図ります。また、修繕の優先度を的確に判断し、適切な時期に効率的・効果的に工事を実施することにより、特定年度に予算が集中することのないよう予算の平準化を図ります。

(4) 持続可能な維持管理

「実効性の高い効果的な修繕計画」となるよう定期点検結果や補修工事等のデータを蓄積し、計画の妥当性を検証するPDCAサイクル【長寿命化修繕計画 策定・改定（P）⇒設計・修繕（D）⇒点検・評価（C）⇒改善・見直し（A）】を継続して回すことにより、持続可能な維持管理を推進します。

1.3 これまでの取り組みと計画の進行管理

(1) 計画の進行管理

長寿命化修繕計画の核となるメンテナンスサイクルについては、平成20年（2008 年）に「第1期計画」、平成29年度（2017 年度）には維持管理に関する基本方針や優先度の考え方などを改定した「第2期計画」を策定し、計画で定めた優先順位に基づき、現在、修繕工事に取り組んでいます。今後につきましては、5年毎の近接目視点検や点検・修繕に活用できる新技術を活用するとともに、点検・修繕履歴データの蓄積による劣化予測の精度向上や、実情を的確に反映した必要予算の確保に努めます。また、5年毎に計画の見直しを行うことにより、より効率的かつ効果的な維持管理の推進を図ります。

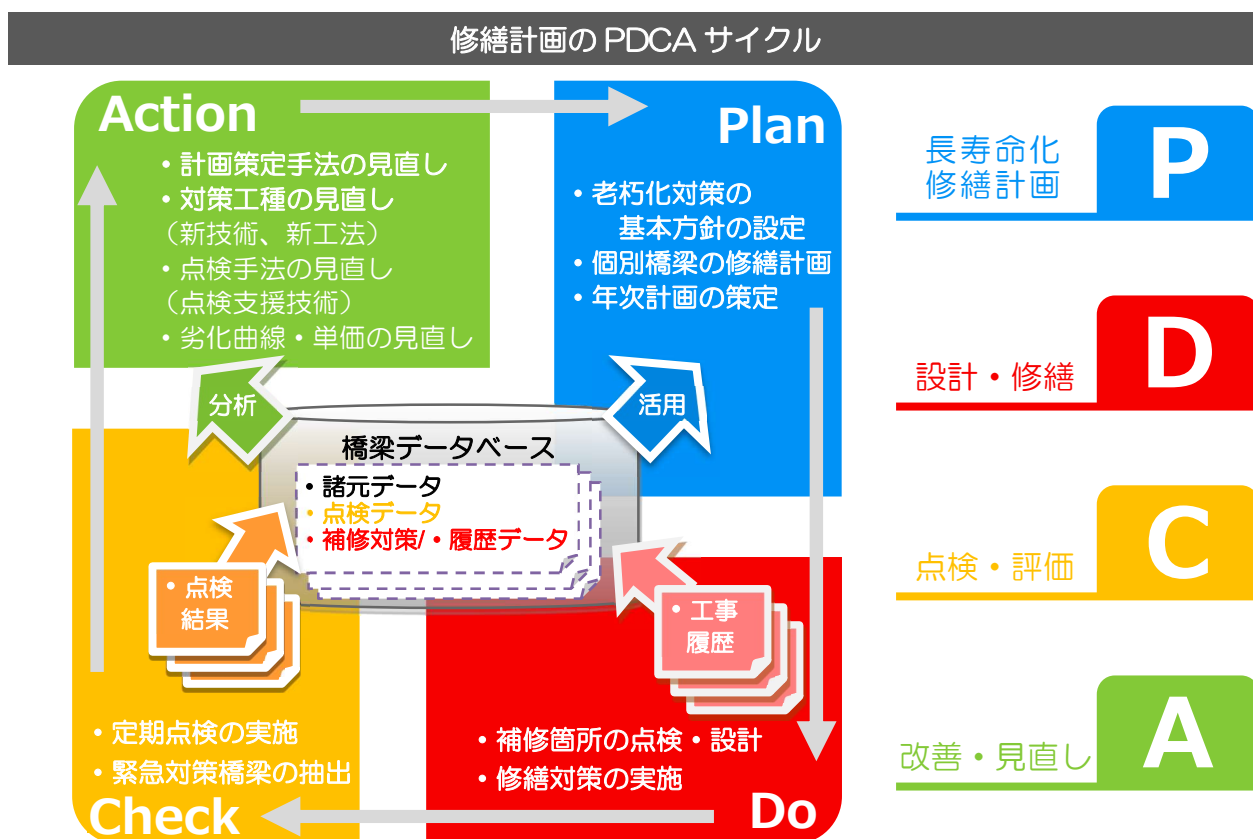


図 1-3 計画の進行管理

表 1-1 豊中市における千里地区歩路橋に関する取組経緯

年 度	豊中市の取り組み	国・府の動向等
平成 19 年度(2007 年度)		・長寿命化修繕計画事業費補助金制度の創設(国)
平成 20 年度(2008 年度)	・定期点検 1 期 31 橋(遠望目視) ・第 1 期計画策定 31 橋	
平成 21 年度～平成 24 年度 (2009 年度～2012 年度)		
平成 25 年度(2013 年度)		・H17 大阪府橋梁点検要領 改定
平成 26 年度(2014 年度)		・道路橋定期点検要領策定(国)
平成 27 年度(2015 年度)		
平成 28 年度(2016 年度)	・定期点検 2 期 24 橋(近接目視)	・H17 大阪府歩道橋点検要領 改定 ・H25 大阪府橋梁点検要領 改定
平成 29 年度(2017 年度)	・第 2 期計画改定 34 橋	
平成 30 年度(2018 年度)		・H26 道路橋定期点検要領 改定(国)
令和 1 年度(2019 年度)		・H28 大阪府橋梁点検要領 改定
令和 2 年度(2020 年度)		・道路メンテナンス事業補助制度の創設(国)
令和 3 年度(2021 年度)	・定期点検 3 期 34 橋(近接目視) ・第 3 期計画改定 37 橋	

(2) 修繕実績例

第1期および第2期計画策定後、各計画に基づき13橋の修繕工事を実施しており、本点検結果においても健全な状態である健全度Ⅰと判定しています。

表 1-2 修繕実績

No.	橋梁名	橋長 (m)	幅員 (m)	健全度	修繕実施年
1	けやき橋	56.60	3.30	Ⅰ	平成 22 年 (2010 年)
2	さつき橋	30.50	3.00	Ⅰ	平成 23 年 (2011 年)
3	かしのき橋	51.80	3.00	Ⅰ	平成 23 年 (2011 年)
4	安場橋	73.10	4.50	Ⅰ	平成 23 年 (2011 年)
5	千里中央西歩路橋	53.20	10.80	Ⅰ	平成 25 年 (2013 年)
6	千里公民館前歩路橋	49.10	1.70	Ⅰ	平成 25 年 (2013 年)
7	千里北歩路橋	26.50	8.40	Ⅰ	平成 26 年 (2014 年)
8	あすなろ橋	27.80	3.00	Ⅰ	平成 27 年 (2015 年)
9	ひらど橋	32.50	3.00	Ⅰ	平成 28 年 (2016 年)
11	千里橋	91.00	4.00	Ⅰ	平成 29 年～平成 30 年 (2017～2018 年)
10	上天竺橋	112.50	3.50	Ⅰ	平成 30 年 (2018 年)
12	長谷北橋	45.50	3.40	Ⅰ	令和 2 年～令和 3 年 (2020～2021 年)
13	長谷北橋斜路橋	107.50	2.50	Ⅰ	令和 2 年～令和 3 年 (2020～2021 年)

表 1-3 修繕実施例

橋梁名	修繕前	修繕後
あすなろ橋 平成 27 年度 (2015 年度) 塗装工 ひび割れ補修工,断面修復工 剥落防止工,表面保護工 橋面舗装工 伸縮装置改修工 高欄嵩上げ工		
千里橋 平成 29 年～平成 30 年 (2017～2018 年) 塗装工 ひび割れ補修工,断面修復工 剥落防止工,表面保護工 橋面舗装工,伸縮装置改修工 高欄設置取替工,縁端拡幅工 横変位拘束構造工,橋脚補強工		
上天竺橋 平成 30 年度 (2018 年度) 塗装工 ひび割れ補修工,断面修復工 橋面舗装工,伸縮装置改修工 支承補修工 地覆改修工 高欄設置取替工 落橋防止装置工		

1.4 計画の見直し概要

第3期計画は、第2期計画の基本的な考え方を踏襲しつつ、計画の進捗状況等を踏まえ、豊中市の実態に即した長寿命化対策に取り組みます。

第3期計画では、主に以下の内容を更新しています。

表 1-4 主な計画の更新内容

項目	第2期計画	第3期計画
歩路橋の現状と点検結果	◆管理橋梁数の見直し ・管理歩路橋 34橋 ・移管・新設に伴い3橋増加	◆管理橋梁数の見直し ・管理歩路橋 37橋 名称変更（橋種別および新設）に伴い、3橋増加 ・橋梁台帳の再整備 ・管理番号、橋梁番号見直し
点検方法の改善	◆点検方法 ・点検車、高所作業車による近接目視	◆点検方法 ・従来の近接目視による点検方法に加え、ポールカメラを用いた点検や点検口から橋梁内部の点検
優先順位の考え方	◆修繕優先事項の見直し ・優先事項3項目	◆修繕優先事項の見直し ・優先事項5項目
予防保全型の事業費算定	◆対策費用の改善 ・第2期計画までの実績で算出	◆対策費用の改善 ・人件費、資材価格の高騰や実勢価格、環境保全対策費を反映
劣化予測の手法	◆劣化予測の精度向上 ・「ライフサイクルコスト研究委員会報告書（社）建設コンサルタンツ協会」等の資料を基に部材毎に設定	◆劣化予測の精度向上 ・2次曲線での回帰曲線 【2回目と3回目の点検結果(評価点)の推移】

第2章 歩路橋の現状と点検結果

2.1 歩路橋の現状

(1) 管理歩路橋数

現在、豊中市が管理する歩路橋は37橋あり、一つの橋梁を橋種別に区分したことや新設に伴い、第2期計画と比べ3橋増加しています。

表 2-1 計画策定時における計画対象橋梁数

区 分	第 1 期計画	第 2 期計画	第 3 期計画
管理橋梁	31 橋	34 橋	37 橋

(2) 名称の変更

歩路橋の名称について、第2期計画策定後に建設された橋梁（無名橋）の命名や材料・構造形式が異なる連続した橋梁について、橋種別に改名しています。

表 2-2 名称変更した歩路橋の一覧

区分	旧橋梁名	新橋梁名	第 2 期計画 からの増減	備考
橋種別 改名	なつめ橋（左側）	なつめ橋	+1 橋	PC橋
		なつめ橋斜路橋		鋼橋（斜路構造）
改名	なつめ橋（右側）	なつめ橋側道橋	—	鋼橋
改名	千里中央立駐前歩路橋（南側）	千里中央立駐前南歩路橋	—	
改名	千里中央立駐前歩路橋（北側）	千里中央立駐前北歩路橋	—	
橋種別 改名	長谷北橋	長谷北橋	+1 橋	PC橋
		長谷北橋斜路橋		鋼橋（斜路構造）
命名	無名橋	千里中央南歩路橋	+1 橋	平成 29 年（2017 年）新設
計	—	—	+3 橋	

(3)位置図

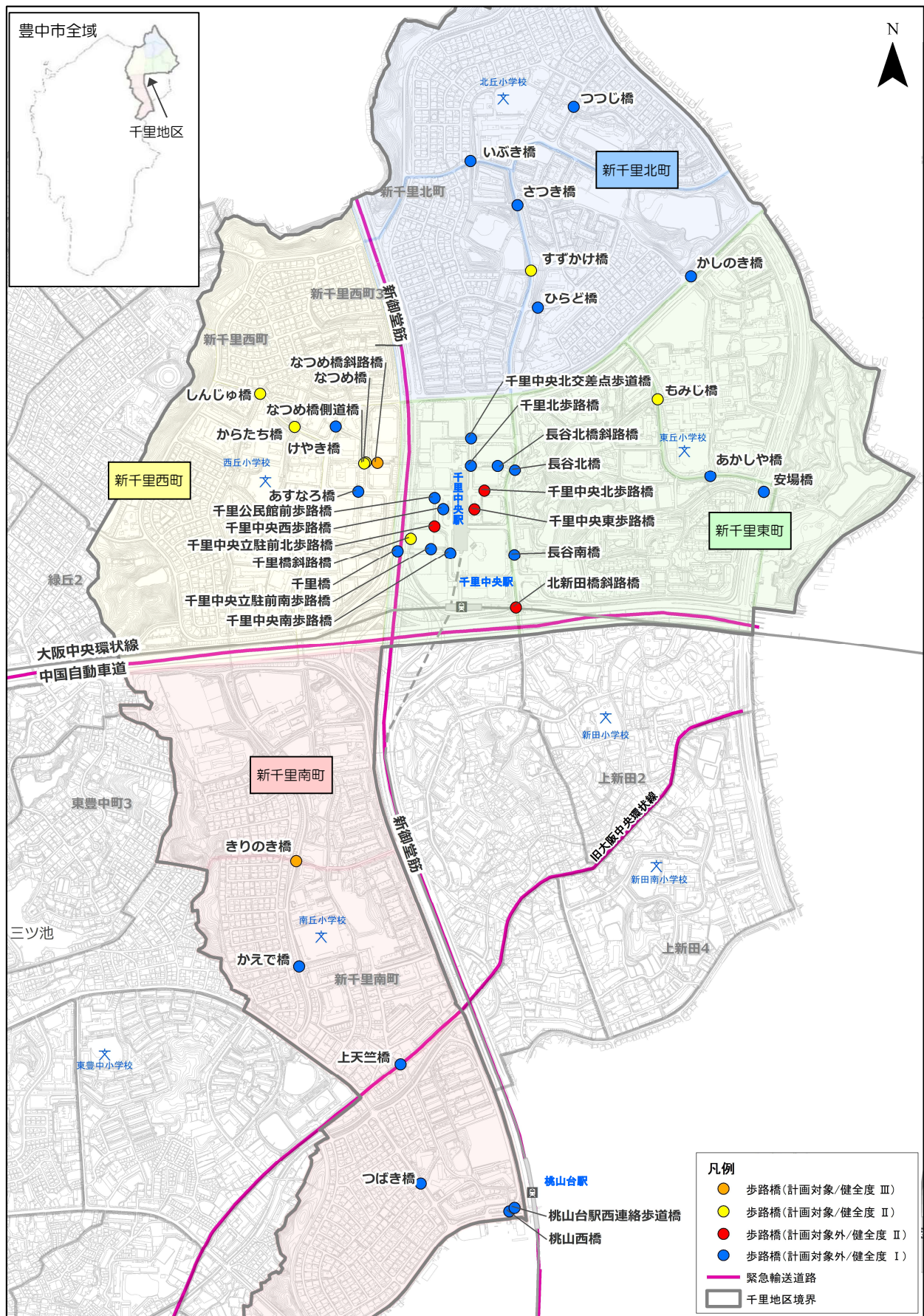


图 2-1 位置图

※上記歩路橋のうち、千里中央地区再整備事業と関連がある千里中央北歩路橋、千里中央東歩路橋、千里中央立駐前北歩路橋および別途事業と関連がある北新田橋斜路橋については、計画対象外としています。

(4)橋種別の橋梁数

橋種別で見ると、鋼橋22橋（59%）、コンクリート橋15橋（41%）となっています。コンクリート橋の内訳としてはPC橋（14橋）、PC/RC橋（1橋）の順になっています。

コンクリート片の落下は、第三者被害に繋がることから、橋梁の41%を占めるコンクリート橋の落下防止対策が重要となります。

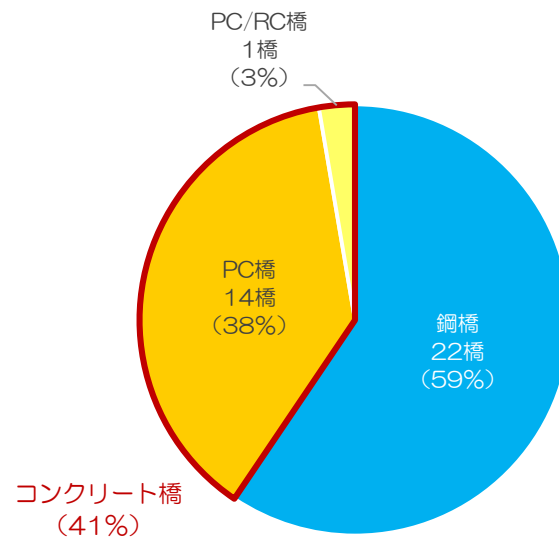


図 2-2 橋種別橋梁数

(5)橋長別の橋梁数

橋長別で見ると30m以上50m未満が17橋（46%）と最も多く、100m以上の橋梁も3橋（8%）あります。

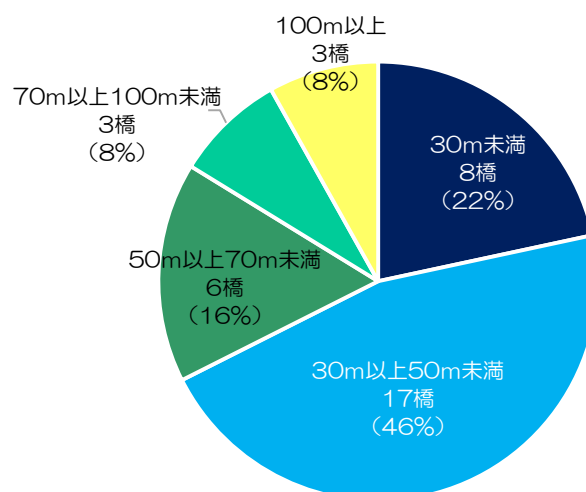


図 2-3 橋長別橋梁数

2.2 点検結果概要

(1) 点検結果に基づく健全度判定結果

歩路橋 37 橋の点検結果に基づく健全度判定結果は、【Ⅲ：2 橋、Ⅱ：11 橋、Ⅰ：24 橋】となります。

表 2-3 健全度結果

NO.	橋梁名	所在地	橋種	建設年	健全度
1	つつじ橋	北町	鋼橋	昭和 40 年 (1965 年)	I
2	いぶき橋	北町	鋼橋	昭和 40 年 (1965 年)	I
3	さつき橋	北町	鋼橋	昭和 40 年 (1965 年)	I
4	かしのき橋	北町	PC 橋	昭和 42 年 (1967 年)	I
5	すすかけ橋	北町	鋼橋	昭和 40 年 (1965 年)	II
6	ひらど橋	北町	鋼橋	昭和 40 年 (1965 年)	I
7	もみじ橋	東町	鋼橋	昭和 41 年 (1966 年)	II
8	あかしや橋	東町	PC 橋	昭和 45 年 (1970 年)	I
9	安場橋	東町	PC 橋	昭和 46 年 (1971 年)	I
10	千里中央北交差点歩道橋	東町	鋼橋	平成 20 年 (2008 年)	I
11	千里北歩路橋	東町	PC 橋	昭和 61 年 (1986 年)	I
12	長谷北橋斜路橋	東町	鋼橋	平成 元年 (1989 年)	I
13	長谷北橋	東町	PC 橋	昭和 46 年 (1971 年)	I
14	千里中央北歩路橋	東町	鋼橋	昭和 55 年 (1980 年)	II
15	千里公民館前歩路橋	東町	鋼橋	昭和 53 年 (1978 年)	I
16	千里中央東歩路橋	東町	PC 橋	昭和 53 年 (1978 年)	II
17	千里中央西歩路橋	東町	PC 橋	昭和 53 年 (1978 年)	I
18	千里中央立駐前北歩路橋	東町	鋼橋	昭和 53 年 (1978 年)	II
19	千里橋斜路橋	東町	鋼橋	昭和 53 年 (1978 年)	II
20	千里中央立駐前南歩路橋	東町	鋼橋	昭和 53 年 (1978 年)	I
21	千里中央南歩路橋	東町	鋼橋	平成 29 年 (2017 年)	I
22	長谷南橋	東町	PC 橋	昭和 48 年 (1973 年)	I
23	北新田橋斜路橋	東町	PC/RC 橋	昭和 55 年 (1980 年)	II
24	しんじゅ橋	西町	鋼橋	昭和 42 年 (1967 年)	II
25	けやき橋	西町	鋼橋	昭和 43 年 (1968 年)	I
26	からたち橋	西町	鋼橋	昭和 42 年 (1967 年)	II
27	なつめ橋斜路橋	西町	鋼橋	不明	III
28	なつめ橋	西町	PC 橋	昭和 45 年 (1970 年)	II
29	なつめ側道橋	西町	鋼橋	平成 3 年 (1991 年)	II
30	あすなろ橋	西町	PC 橋	昭和 45 年 (1970 年)	I
31	千里橋	西町	PC 橋	昭和 53 年 (1978 年)	I
32	きりのき橋	南町	PC 橋	昭和 44 年 (1969 年)	III
33	かえで橋	南町	PC 橋	昭和 42 年 (1967 年)	I
34	上天竺橋	南町	鋼橋	昭和 45 年 (1970 年)	I
35	つばき橋	南町	鋼橋	昭和 45 年 (1970 年)	I
36	桃山西橋	南町	PC 橋	昭和 49 年 (1974 年)	I
37	桃山台駅西連絡歩道橋	南町	鋼橋	平成 22 年 (2010 年)	I

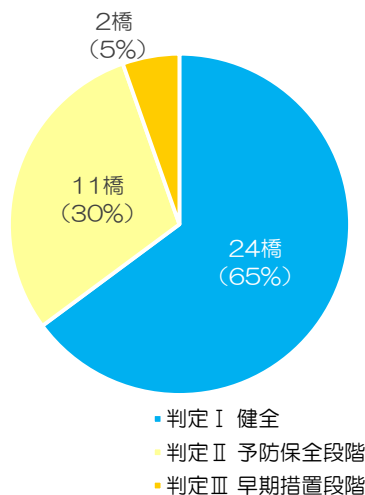


図 2-4 管理橋の健全度判定結果

表 2-4 省令・告示に基づく判定区分

区 分		状 態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

(2) 損傷傾向

健全度判定Ⅱ以上の歩路橋の構成は、鋼橋 22 橋のうち 9 橋（41%）、コンクリート橋 15 橋のうち 4 橋（27%）となっています。鋼橋については経年劣化に伴う鋼材腐食による損傷が顕著であり、健全度の低下傾向が見られます。

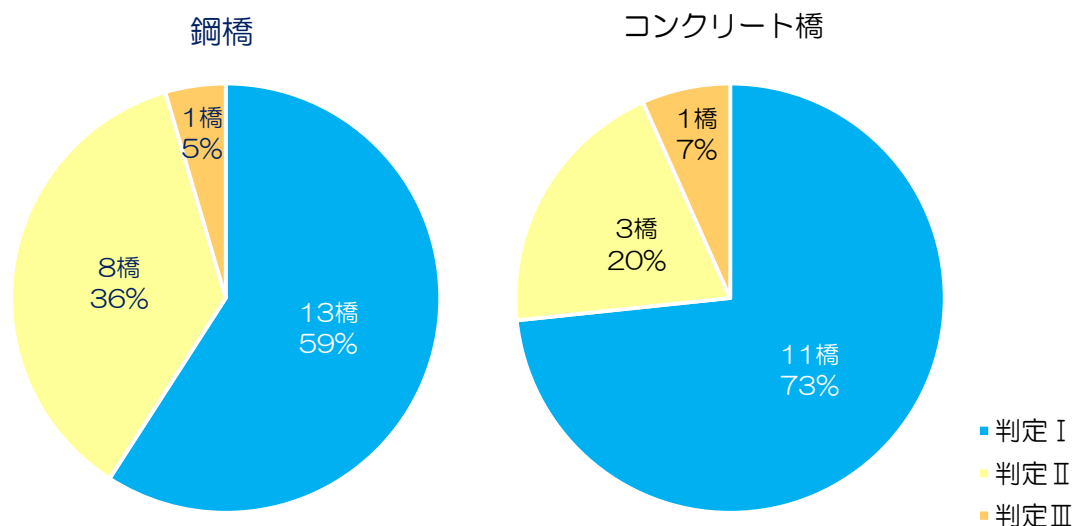


図 2-5 橋種別の健全度判定

(3) 建設年代別の損傷傾向

建設年代別の損傷傾向については、昭和35年～昭和44年（1960年代）と昭和45年～昭和54年（1970年代）に建設された橋梁が大半を占めており、第1・2期計画に基づき修繕を実施していることによって建設年次の古い橋梁の健全度が改善されていますが、竣工後40年以上経過している未修繕の橋梁に損傷の進行が見られます。

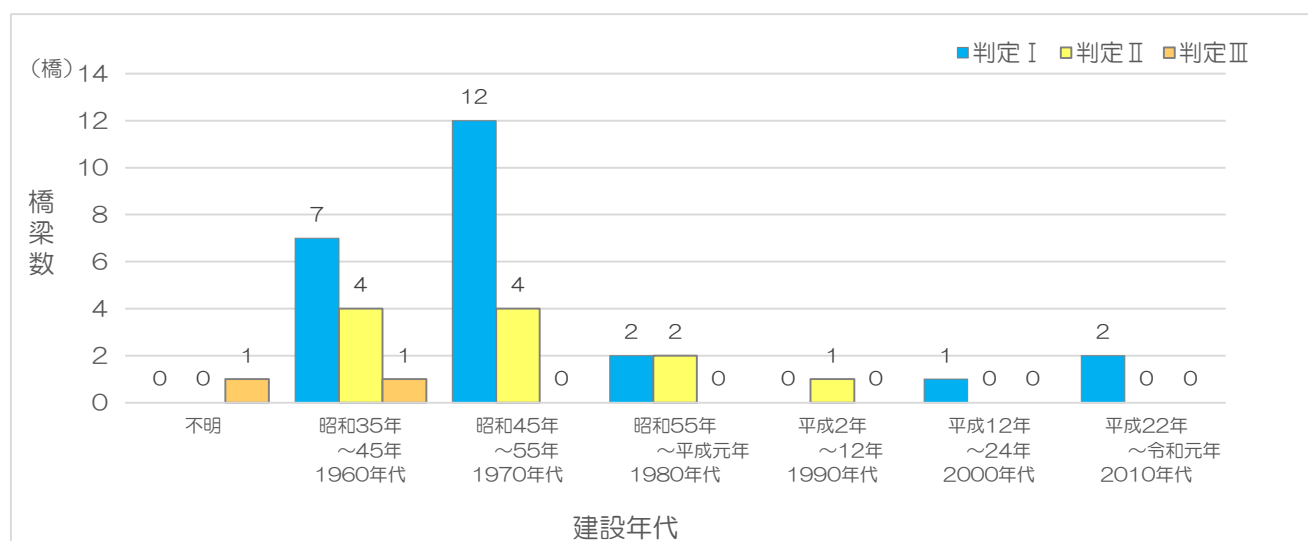


図 2-6 建設年別の健全度分布

第3章 修繕計画対象橋梁

3.1 修繕計画対象の歩路橋

修繕計画の対象とする歩路橋は、点検調査結果に基づき健全度Ⅱ以上と判定した 13 橋のうち、千里中央駅周辺において計画されている再整備事業と関連がある3橋（千里中央北歩路橋・千里中央東歩路橋・千里中央立駐前北歩路橋）と別途事業と関連がある 1 橋（北新田橋斜路橋）を除く 9 橋を対象とします。

表 3-1 長寿命化修繕計画の対象とする歩路橋

No.	橋梁名	所在地	橋長 (m)	全幅員 (m)	建設年	建設後 経過年	橋種	路線名	交差道路名	健全度
1	すすかけ橋	北町	48.00	3.00	昭和 40 年 (1965 年)	57	鋼橋	新千里北町歩 第 36 号線	新千里 2 号線	Ⅱ
2	もみじ橋	東町	32.50	3.00	昭和 41 年 (1966 年)	56	鋼橋	新千里東町歩 第 5 号線	東丘小学校 通り線	Ⅱ
3	千里橋斜路橋	東町	41.60	2.30	昭和 53 年 (1978 年)	44	鋼橋	法定外道路	なし（駐輪場）	Ⅱ
4	しんじゅ橋	西町	38.40	2.70	昭和 42 年 (1967 年)	55	鋼橋	新千里西町歩 第 15 号線	新千里西町 センター通り線	Ⅱ
5	からたち橋	西町	38.40	2.70	昭和 42 年 (1967 年)	55	鋼橋	新千里西町歩 第 12 号線	新千里西町 センター通り線	Ⅱ
6	なつめ橋斜路橋	西町	28.30	3.00	不 明	52	鋼橋	新千里西町歩 第 12 号線	なし	Ⅲ
7	なつめ橋	西町	26.30	3.00	昭和 45 年 (1970 年)	52	PC 橋	新千里西町歩 第 12 号線	新千里 第 24 号線	Ⅱ
8	なつめ橋側道橋	西町	26.60	2.10	平成 3 年 (1991 年)	31	鋼橋	新千里西町歩 第 12 号線	新千里 第 24 号線	Ⅱ
9	きりのき橋	南町	21.00	3.80	昭和 44 年 (1969 年)	53	PC 橋	新千里南町歩 第 10 号線	新千里 5 号線	Ⅲ



図 3-1 長寿命化修繕計画の対象とする歩路橋の状況

第4章 維持管理における基本方針

4.1 点検および日常管理の基本方針

歩路橋の状態把握は、5年に1度の頻度で点検と橋梁に関する必要な知識と技能を有する者によって定期点検を行います。また、状況に応じて、台風・大雨・地震等の災害時における橋梁の状態確認のほか、道路損傷等通報アプリケーション「まちカメくん」によって市民から寄せられる意見・苦情・要望等の情報を活用し、日常管理を行います。

4.2 健全度の判定区分および管理水準の設定

歩路橋の健全度については、点検要領に基づき算出される健全度指標HI（Health Index）との対比結果を参考にしつつ、維持修繕に関する省令・告示で求められる4段階の分類に基づいて区分します。健全度判定区分における管理水準は以下の通りであり、5年毎に実施する定期点検結果に基づき健全度Ⅱ以上と判定された橋梁を評価点の低いものから順次修繕を行います。

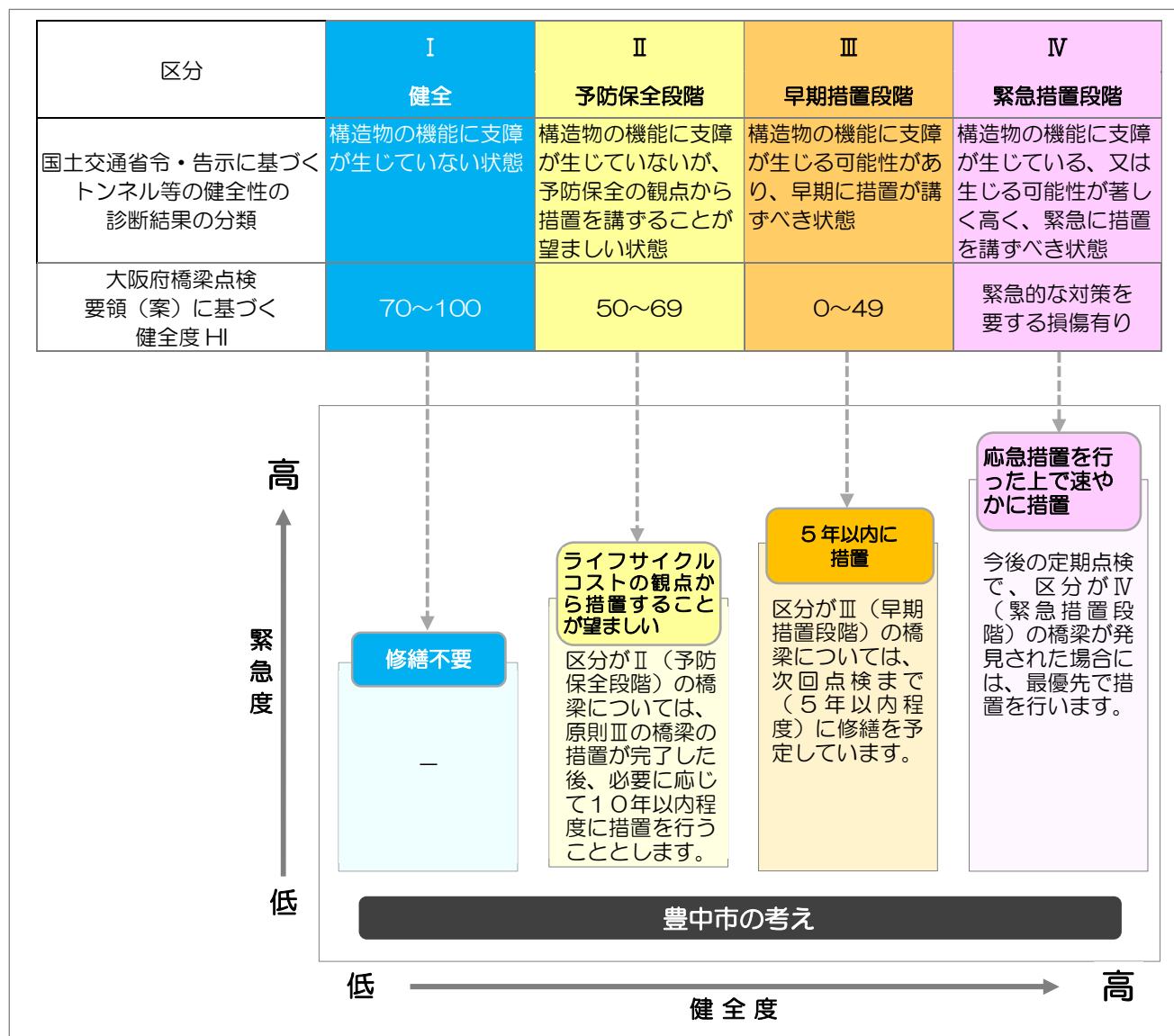


図 4-1 健全度の判定区分および管理水準

(1)優先事項の考え方

定期点検で区分ⅢまたはⅡと判定された歩路橋については、原則、下記に示す修繕優先事項に基づき修繕を実施します。また、区分Ⅱと判定された他事業と関連性がある歩路橋などについては、本計画では対象外としていますが、第三者被害が懸念される損傷や通行に支障がある損傷が確認された場合、速やかに現地調査を行ったうえ、効果的な補修等の対応を図ります。

修繕優先事項

優先事項 1) 健全度評価

定期点検の健全度診断結果に基づき、健全度が低い（劣化している）歩路橋を優先します。

優先順：「判定区分Ⅳ→判定区分Ⅲ→判定区分Ⅱ→判定区分Ⅰ」

優先事項 2) 路線の重要度①【緊急交通路（路下）】

災害時等における避難路および輸送路としての機能確保を図る観点から、緊急交通路を跨ぐ歩路橋を優先します。

優先事項 3) 路線の重要度②【鉄道駅と近接】

通勤・通学等の公共交通の拠点である鉄道駅へのアクセス性と利便性の向上および、耐震補強による災害に強い安心・安全で信頼性の高い歩行者ネットワークの構築を図る必要性から、鉄道駅に近接している歩路橋を優先します。

優先事項 4) 路線の重要度③【中央拠点地区へのアクセス性】

鉄道駅、商業施設や公共施設等が多く占める中央拠点地区へのアクセス性向上と中央拠点地区への回遊性や快適性を高めることによるぎわいの創出および、耐震補強による災害に強い安心・安全で信頼性の高い歩行者ネットワークを構築する必要性から、主要なアクセス動線に位置する歩路橋を優先します。

優先事項 5) 路線の評価【道路等級（路下）】

円滑で安心・安全な道路交通環境の確保を図る観点から、基幹的な道路網を形成し、日常生活において根幹的な役割を担っている道路を跨ぐ歩路橋を優先します。

優先順：「国道・府道→1級道路（主要幹線道路）→2級道路（補助幹線道路）」

※上記の優先事項 1)～5)に関わらず、第三者被害に関わる損傷や通行に支障のある損傷が確定された場合、速やかに対応します。

4.3 短期的な数値目標

4.3.1 新技術等の活用方針

(1) 新技術等活用の基本方針

定期点検の効率化や高度化、修繕等の措置の省力化・縮減を図るため、「点検支援技術性能カタログ（案）」や「新技術情報システム（NETIS）」に掲載されている新技術等の活用を行います。

(2) 新技術の比較検討の実施

1) 修繕

修繕工法の選定にあたっては、従来工法のみでなく新工法や新材料などの新技術を加えた比較検討を行い、費用の縮減や事業の効率化を図ります。

2) 点検

「点検支援技術性能カタログ（案）」に掲載されている新技術や、その他近接目視点検を充実・補完・代替する新技術などの活用に向けた検討を行い、点検費の縮減や点検の効率化を図ります。

(3) 新技術等の活用目標（短期的な数値目標）

令和 9 年度（2027 年度）を目標とし、管理する 37 橋全てで修繕や点検等に係る新技術の活用の検討を行うとともに、その内約 1 割の橋梁で費用の縮減や事業の効率化等の効果が見込まれる新技術等を活用することを目標とします。

4.3.2 費用の縮減に関する具体的な方針

(1) 新技術による費用縮減の具体方針

歩路橋の修繕に係る費用の多くを塗装塗替え工が占めるため、最新の防錆防食技術の導入を図ります。また、迂回路が存在する橋梁については、社会経済情勢や利用状況等の変化に応じて、集約化・撤去を検討します。

(2) 費用縮減の数値目標（短期的な数値目標）

予防保全型の維持管理に着手することにより、80年間で 29%の維持管理費が縮減されることから、令和 9 年度（2027 年度）までに健全度Ⅱ以上の歩路橋の修繕に向けた取り組みを進めます。

令和 9 年度（2027 年度）を目標とし、修繕する橋梁の全てで費用の縮減が見込まれる最新の防錆防食技術等の新技術を活用し、塗装塗替えに要する費用の約 3 割程度の縮減を目標とします。

第5章 長寿命化修繕計画

修繕優先事項の考え方に基づき策定した長寿命化修繕計画は、以下に示すとおりです。

優先 順位	橋梁名	橋長 (m)	幅員 (m)	橋種	建設年	健全度	対策の内容・時期	
							令和4年 (2022年)	令和13年 (2031年)
1	きりのき橋	21.00	3.00	PC橋	昭和44年 (1969年)	Ⅲ	修繕	
2	千里橋斜路橋	41.60	2.40	鋼橋	昭和53年 (1978年)	Ⅱ	修繕	
3	なつめ橋斜路橋	28.30	3.00	鋼橋	不明	Ⅲ	修繕	
4	なつめ橋側道橋	26.60	2.10	鋼橋	平成 3年 (1991年)	Ⅱ	修繕	
5	なつめ橋	26.30	3.00	PC橋	昭和45年 (1970年)	Ⅱ	修繕	
6	すすかけ橋	48.00	3.00	鋼橋	昭和40年 (1965年)	Ⅱ	設計 修繕	
7	しんじゅ橋	38.40	2.70	鋼橋	昭和42年 (1967年)	Ⅱ	設計 修繕	
8	からたち橋	38.40	2.70	鋼橋	昭和42年 (1967年)	Ⅱ	設計 修繕	
9	もみじ橋	32.50	3.00	鋼橋	昭和41年 (1966年)	Ⅱ	設計 修繕	
—	定期点検	—	—	—		—	点検	点検

表 5-1 歩路橋長寿命化修繕計画

- ※1 千里橋斜路橋の健全度については、第2期計画策定後に主要部材による評価から橋全体の評価へと改訂（「道路橋定期点検要領/平成31年2月」）されたことから、本計画では健全度ⅢからⅡに見直しを行っており、前計画で定めた優先順位に基づき事業実施に向けた取り組み（設計等）が既に進められているため、順位を2位に位置付けています。
- ※2 本計画は今後10年間の計画を示していますが、5年毎に実施する定期点検に合わせ、計画の見直しを行います。

豊中市千里地区歩路橋長寿命化修繕計画（第3期）

令和4年（2022年）8月

豊中市都市基盤部基盤整備課

〒561-8501 豊中市中桜塚3丁目1番1号

TEL : 06-6858-2687

FAX : 06-6854-0492

E-mail : douroiji_keikaku@city.toyonaka.osaka.jp